

令和2年度  
事業報告書

社会福祉法人黒潮園

## 令和2年度社会福祉法人黒潮園事業報告

### 1. はじめに

令和2年度事業ではコロナウイルス感染症の全国的感染拡大に歯止めがかからずご利用者への感染対策に細心の注意を要し、介護事業に従事する職員の在り方ほか、サービス提供の在り方を再考する1年間でした。そこで刻々と変化する感染状況に合わせ、その都度、感染症対策の指針を立て全職員で共有するとともに、対策セミナーを実施するなど感染症対策に積極的に取り組みました。生活圏域における陽性者の発表もありましたが、幸いにも特に大きな影響を受ける事なく事業を終える事ができました。

令和2年度事業計画では新たな法人の未来像と方向性を示す中期ビジョン『KUROSHIO-EN vision 2025』を策定しました。多様化する個別ケアにICTの活用など最新のテクノロジーを積極的に導入し、効率的な業務システムを再構築し、業務効率化と生産性の向上による労務環境の向上とケアの質向上の両輪の実現を目指すものです。そしてこのビジョンは未来に向けた介護の仕事の魅力創出への新たなチャレンジでもあります。その一歩として現場の課題抽出を行い業務改善に取り掛かった年度となりました。

### 令和2年度法人重点実施項目

#### 1. アクションプラン2020

『KUROSHIO-EN vision 2025』に基づき、令和2年度は以下の2項目を実行計画に掲げ取り組んだ

##### (1) 職員満足（ES）向上への取り組み

未来の法人デザインを担う人材育成と、現場主導による課題の把握と改善を目的に、5・6等級（上位等級者）による『ES向上プロジェクト』を立ち上げた。課題把握には(株)日本経営が実施する組織活性度分析アンケートを活用し、職員の意欲と満足を高めるための効果的な要因を明らかにし改善案の検討を行った。その結果、デイサービスセンター悠久の近年の利用者急増に伴う業務改善が立ち遅れていることにより、組織活性度が低い状況が明らかになった。そこで理事長自ら更なる課題抽出アンケートを実施し、現場の会議を通じて人員配置の見直しや業務改善に取り組んだ他、役職者・上位等級者を対象にしたセミナーを実施し組織全体の意識改革に取り組んだ。また、今年度も働きやすい職場づくりの基本方針に基づき、有給休暇取得や連休取得の推進に取り組んでいる。

##### <主な実績>

- ・ES向上プロジェクトによる組織活性度分析アンケートの実施（資料1）
- ・役職者研修『課題解決思考とチームビルディング』（令和3年1月25日）
- ・中堅研修 『グループ（集団）とチーム（組織）の違いとは』（令和3年1月18日）
- ・人材育成に向けた施設内研修と外部研修（WEBセミナー）（資料2・3）
- ・有給休暇取得推進

正職員1人平均有給休暇取得数10.7日・取得率76.7%

医療・福祉1人平均年次有給休暇取得数8.9日・取得率53.4%（厚生労働省「令和2年就労条件総合調査」）

介護職の連休取得実績（パートも含む）

	3連休	4連休	5連休	6連休以上
黒潮園	94回	14回	6回	15回
クレール高森	39回	3回	1回	4回
デイサービス悠久	29回	21回	5回	5回

(2) 業務効率化への取り組み

基本方針にある『質の高いサービスの提供』に向けた個別ケアと自立支援介護の充実は、これに比例して労務負担も増す傾向にあると言え、個別ケアの詳細や変更事項といった多様化する情報の共有方法が課題の一つとしてあげられる。そこでiPadの導入のほか、情報共有ツールとしてアプリを開発し効率化に取り組んだ。また、全事業所にインカムを導入し職員間の連絡の効率化にも取り組んでいる。一方で、国も業務の効率化にICTや介護ロボットなど最新のテクノロジーの活用を推進しています。そこで厚労省が実施する排尿のタイミングをタブレットに通知する排泄デバイスの活用の実証実験に黒潮園が協力しデータ提出を行いました。業務改善においては間接介護業務を担うパート職員の雇用ほか人員配置の再検討を行っている。引き続き次年度ではケアの質向上とこれに係る労務負担の軽減と相反する課題の解決に向け、各シフトの業務を可視化するオペレーションシートを作成し業務標準を示すマニュアル作成に取り組んでいきたい。

<主な実績>

- ・厚労省「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」実証調査への協力  
排泄予測デバイス D-free の活用による排泄支援のデータ提出
- ・情報共有ツール『KUROSHIO-EN Works アプリ』の開発
- ・タブレット（iPad）の導入によるケア記録入力の効率化とペーパーレス化
- ・インカム（無線通信システム）の導入による業務伝達の円滑化
- ・間接介護業務の見直しと家事パートの追加雇用（クレール高森1名・デイサービス2名）
- ・デイサービスセンター悠久の業務改善と人員配置の見直し（看護師1名・介護職1名の増員）

2. 収益性向上における職員処遇向上への取り組みと経営基盤強化

介護事業における収益性は稼働率（利用率）により大きく左右されます。施設において入院者による空床が稼働率低下の一要因となると同時に、年間入院日数が少ないことは健康管理ほかサービスの質と相関すると言われます。当法人が特に力を入れ取り組んでいる摂食嚥下への取り組みによる誤嚥性肺炎の減少や、自立支援介護による心身機能の維持向上により、近年は入院者が少なく経過しているが、特に今年度は極めて少ない入院日数の実績となっている。また、入院時の短期入所の受け入れ調整等、地域事業所との連携を円滑に実施し、今年度は過去最高の施設稼働率の実績となった。そこで当法人が目指す質の高いサービスの提供と専門職としての高い処遇の実現を高次元で実行することが出来た。

<主な実績>

稼働率(ショート含む)	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
黒潮園	100.0%	99.6%	99.7%	99.1%
デイサービス悠久	85.5%	82.0%	83.0%	82.9%
クレール高森	99.8%	99.5%	99.5%	99.3%

入院状況	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
	黒潮園/クレール高森	黒潮園/クレール高森	黒潮園/クレール高森	黒潮園/クレール高森
入院者数	14名/3名	22名/7名	50名/10名	52名/17名
延べ入院日数	326日/91日	599日/130日	446日/185日	625日/252日

※100床規模（黒潮園）で延べ入院日数500日前後が優良とされている

- ・実績に応じ令和2年度定期昇給4ピッチ昇給の実施（例年3ピッチ昇給）
- ・高稼働率により適正利益を確保しつつ冬季賞与0.3ヶ月上乘せ、3月賞与（一時金）の増額支出による職員処遇への還元
- ・人事制度に連動する役割等級に応じた公平処遇の実現

役割等級と年間賞与実績（夏季・冬季・年度末一時金）

単位：名

	1・2等級	3等級	4等級	5等級	6等級	合計
120万円以上			1	7	5	13
100万円以上	3	6	10			19
80万円以上	19	7				26
60万円以上	22					22
60万年未満	12					12
合計	56	13	11	7	5	92

### 3. 地域貢献に向けた取り組み

地域におけるショートステイの利用状況では、各事業所ともに事前の予定で埋まっていることが多く、急なご家族の用事等があった場合の利用が難しい現状がある。黒潮園では地域の居宅介護支援事業所と連携し、居宅サービス計画に計画されていない緊急的な受け入れを可能とする制度に積極的に取り組んでいる。介護者の急な入院による依頼の他、今年度はご本人の急な体調不良等による介護負担増に伴う短期的な施設での受け入れ事例が多数ありました。

また例年受け入れているボランティアスクールや実習等はコロナウイルス感染症の拡大に伴い実績は有りませんでした。今年度は県立新翔高校の介護実務者研修の授業で理事長が講師を行い、介護の魅力や仕事について発信に取り組んでいる。

<主な実績>

- ・緊急ショートステイの受け入れ

令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
23件	24件	24件	18件

- ・県立新翔高校実務者研修講師派遣

### 3. 特別養護老人ホーム黒潮園事業報告

定員100名の大規模な施設である黒潮園ではフロアごとにご利用者と職員を固定配置したグループケアを実施しています。今年度はさらに1フロア30数名のご入居者を介護度に応じて2つのグループに分けケア単位を小さくし、より充実したケア提供に向けた業務体制の検証を行った。より重度なご利用者へのきめ細かな健康管理と自立支援介護、またご本人の主体性を活かした余暇活動がより効率的に提供できる体制づくりに取り組んでいます。まだまだ試行錯誤を要する状況ですが、人員配置を充実させるだけではなく、ケア提供体制そのものを見直すことにより、基本方針にある『質の高いサービスの提供』が持続的かつ発展的なものとなるよう取り組んでいる所です。また新たに歯科衛生士を常勤雇用し、口腔ケアの充実と摂食嚥下への取り組みの更なる専門性向上に取り組んでいる。

<基本方針と実績>

(1) 豊かさを感じる日々の暮らしの実現

- ・コロナウイルス感染拡大に伴い、計画していた外出支援は自粛となったが、中庭での食事会や運動会など自施設内で出来る行事を実施
- ・フロアでのお菓子づくりなど、食を通じた身近な余暇活動の充実に取り組めた
- ・移動販売車「とくし丸」を活用した定期的な買い物の楽しみの提供（毎週月曜日）

(2) 専門性のある質の高いケアの実践

- ・おむつに依存しない排泄ケアへの取り組み
- ・嚥下摂食委員会における歯科衛生士の関わりと経口維持加算の取得
- ・歯科衛生士による口腔ケアと多職種による摂食嚥下への取り組みが誤嚥性肺炎の減少と年間入院日数の減少につながっている
- ・介護サービス向上委員会による自立支援介護と多職種連携によるチームケアの充実
- ・リハビリ委員会と褥瘡委員会の連携によるベッド上ポジショニングと褥瘡予防への取り組み
- ・居室担当制の充実によりカンファレンスにおけるアセスメント力の向上

(3) 働きやすい職場づくり

- ・介護主任・副主任会議を行い業務改善や勤務体制の調整など3フロアで情報共有し取り組んだ
- ・有給休暇取得方法の希望聴き取りシートを活用し休暇取得の推進に取り組んだ
- ・清掃、洗濯職員との業務連携が円滑となるよう定期的なミーティングを実施

#### 4. 地域密着型特別養護老人ホームクレール高森事業報告

中期ビジョンにユニットケア推進センターによる実地研修施設の認定を目指し、ユニットケアの充実への取り組みを掲げてきましたが、コロナウイルス感染症の全国的な拡大により、実地研修の中止のほか実地研修施設認定の受け付けも中止となっている。これに伴い参加予定であった同センター主催の研修は開催されず、前年度の参加で指摘された重度化への対応、ケース記録の在り方、推奨される8時間夜勤への変更等の見直しに取り組んだ。またコロナウイルス感染拡大に伴い、計画していた地域交流イベント「オープンカフェ」やご家族交流会の開催は見送りとなりましたが、オンライン面会の実施や暮らしの様子のお写真と手紙の送付などご家族とご入居者様の繋がりに配慮した取り組みを実施しています。

##### <重点実施項目と実績>

##### (1) ユニットケア充実に向けての取り組み

- ・ 日中の人員が手厚くなるよう夜勤勤務時間を10.5時間から8時間に変更し業務効率化に取り組んだ
- ・ 8時間夜勤の導入によるケース記録に係る時間の確保と内容の充実
- ・ ケース記録とケアプランの重要性について勉強会を実施
- ・ ケアプランに基づくケアの提供と実施内容が反映されたケース記録の作成の充実を図り、居室担当者が支援内容を評価しケアプランの個別評価表を作成する体制づくり

##### (2) 専門的介護の実践

- ・ 愛知介護力向上講習会への新人職員の参加による専門的知識習得と人材育成への取り組みは、コロナウイルス感染症の影響により不参加となったが、法人内の介護サービス向上委員会での事例検討に参加し実践する事ができた。
- ・ ポジショニングの勉強会を実施し、褥瘡の予防・改善に向けた適切なポジショニングを統一した他、患部の画像管理を行い褥瘡ケアに取り組んだ
- ・ 根拠に基づいた基本ケア（水分、食事、排泄、運動）を実施し、週1度のカンファレンスで経過、フィードバック、再アセスメントし、継続した自立支援が受けられるよう取り組んだ

##### (3) 暮らしの充実

- ・ 個別外出、地域行事など個々の希望に合わせた支援はコロナウイルス感染症の影響により実施することが出来なかったが、各ユニットにおいて誕生会、おやつ作り、軽体操レク、音楽レク等を実施
- ・ 地域の方が来られる「オープン喫茶」の年2回開催、家族交流会の企画も見送りとなる
- ・ コロナウイルス感染対策の方針に伴う面会の中止期間に、ご家族に暮らしの様子をお伝えする動画撮影やお手紙に写真を添えて送付させて頂いた
- ・ LINE 電話を活用したオンライン面会の実施

##### (4) 魅せられる介護の実現

- ・ ユニットリーダー研修実施施設に向け、ユニット推進センター主催のユニットケアじっくり取り組みコース研修に3名のサブリーダーの参加を予定していたが開催中止となったが、前年度に明らか

になったマニュアル作成に着手する事ができた

(5) 働きやすい環境作り、職員が主体性をもてる仕事場創り

- ・職員に業務改善アンケートを実施し労働状況、ケアについての課題を把握し、今後の方針を職員で共有する取り組みが出来た

(6) 各ユニット事業報告

**【1F 北ユニット】**

- ・自立と自律の観点からロングショート様の外出支援を企画したが、コロナ禍により中止し、その代替計画としてカラオケや体操、おやつ作りなどのレクリエーションを実施

**【1F 南ユニット】**

- ・ユニットの環境整備
- ・月一回担当を決めてユニットの掃除、整頓による快適な暮らしの場づくりに取り組んだ
- ・月1回居室担当者をご入居者のタンスを整理させて頂き衣類の管理に取り組んだ

**【2F 北ユニット】**

- ・入居者様に対する姿勢、言葉遣い、職員間での言葉遣い、私語など簡単なチェック表を作成し各自評価するなど職員の資質向上に取り組んだ

**【2F 南ユニット】**

- ・ユニットミーティングを通じてユニットケアの実践に欠かせない記録、24時間シートにおけるアセスメント、ケアプランの連動について学ぶ機会を設け、その人らしい暮らしの情報の充実に取り組んだ

## 5. デイサービスセンター悠久事業報告

コロナウイルス感染症の蔓延により、地域からのご利用者が集まるデイサービスでは特に対策が求められる中、非接触式体温計の導入によるお迎え先での検温、アクリル板の設置、利用中のマスクの着用など感染予防を徹底しつつご利用者の受け入れを継続しました。そこで地域外の者との接触のあったご利用者の経過観察期間の設定や発熱時の利用中止等の対応をさせて頂き、利用減の影響が考えられましたが中重度や認知症の方への対応力や、軽度の方や介護サービスを受けるのが初めての方でも馴染みやすい事業所として利用相談が増加し、コロナ禍であっても多岐に渡るニーズに対応する事ができました。一方で定員45名と大規模なサービス提供の実態に応じた業務変更が出来ておらず、職員への業務負担増が課題となっており改善を要する状況にある事が課題となっている。

### <基本方針と実績>

#### (1) その人らしい在宅生活の維持の実現

- ・ 中重度高齢者や認知症高齢者の在宅支援・ご家族支援への取り組み
- ・ 延長時間対応や夕食の提供など、あらゆるニーズにお応えするサービスの提供
- ・ 看護師による機能訓練を通じて活動量の向上と認知機能やADL低下の予防への取り組み
- ・ ご家族様や介護支援専門員、他職種他事業とも連携した質の高いサービス提供

#### (2) より充実した余暇活動やサービスの提供の実践

- ・ 季節を感じるドライブなど外出企画はコロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、動画による速玉大社初詣などオンラインドライブの実施
- ・ 新翔高校ブラスバンド部と協働で動画と少人数での演奏による感染対策と慰問の試み
- ・ 看護師の追加採用による入浴時の処置ほか健康管理の充実
- ・ 食事前の口腔体操、食後の口腔ケア、レクリエーションの時間に歌唱を取り入れた口腔機能の維持・口腔フレイル対策への取り組み

#### (3) 充実した人材育成や働きやすい環境作り

- ・ 部署内にて介護技術の勉強会や困難事例の検討会を実施しスタッフのスキルアップに取り組んだ
- ・ 勤務表作成時の事前希望受け付け時に有給休暇の申請も可能とした休みの取りやすい職場づくり
- ・ 清掃パート、家事パートの雇用による間接介護業務の分担による職員の労務負担軽減
- ・ 介護ソフトの活用によりご家族連絡ノートの記入のペーパーレス化と記録業務の効率化
- ・ 非公開ブログ「悠久伝言板」を開設し、情報量の多い送迎対応の注意点やケア内容、余暇活動に関する個別利用者情報が随時閲覧、共有できるツールによる効率化

#### (4) 改修工事に向けて皆の夢を形にする

- ・ 新たなニーズにお応えする悠久のサービス提供に向けプロジェクトチームを立ち上げることを企画したが、現状の業務負担の改善が喫緊の課題となり、令和2年度はその改善に向けた取り組みの実施に終える結果となっている

## 6. 在宅介護支援センター悠久

特養・デイに併設する居宅介護支援事業所である在宅支援センター悠久は、介護支援専門員1名の配置により事業を実施している。新宮市の委託事業として居宅予防支援（ケアプラン作成）に取り組む他、在宅介護に関する当法人の窓口として地域における総合相談を行う他、特養併設ショートステイやデイサービスセンター悠久との情報交換、連携を密に取ることにより、迅速かつ充実した対応ができています。今年度は黒潮園のご入居者の要介護度の改善（介護度2以下）により、入所の継続が困難となった事例が3件あり、急遽、担当し短期入所に切り替えサービスの提供を円滑に継続する支援に取り組むことが出来た。

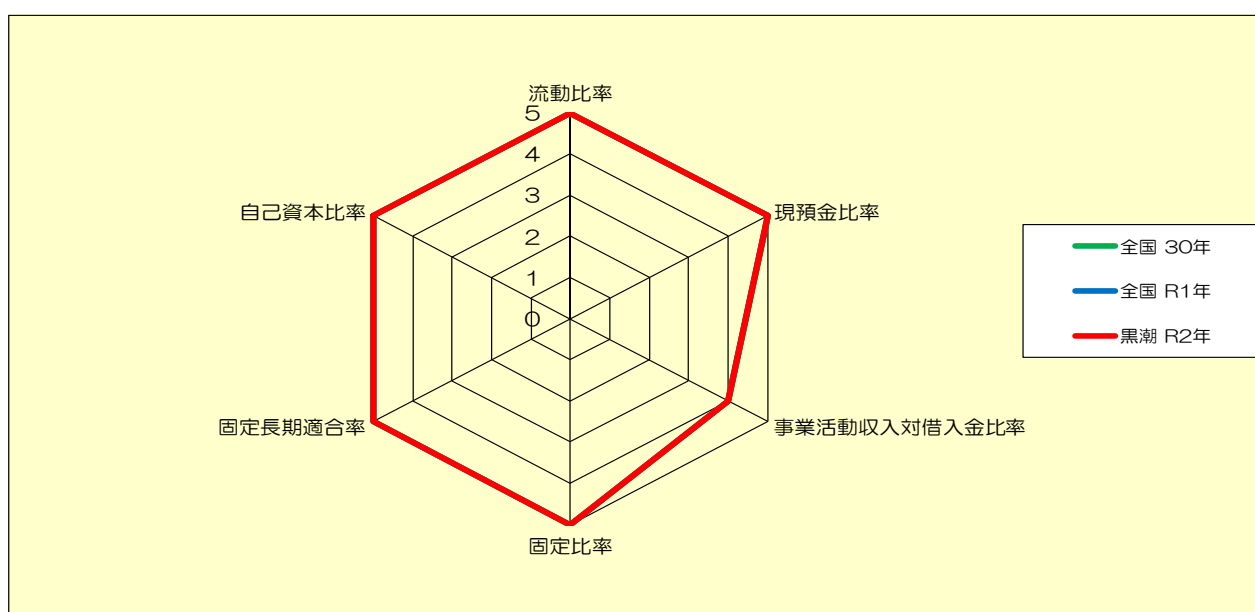
# 令和2年度社会福祉法人黒潮園決算概要報告書

## 1、令和2年度決算状況について（法人合算）

令和2年度の決算状況（法人全体）について、財務における法人の安全性を図る指標を点数化し、独立行政法人福祉医療機構が調査した「2019年度社会福祉法人の経営状況について」を参考に全国平均データの財務状況を比較しております。

### ◆安全性の分析

			全国	黒潮	黒潮	全国	全国	黒潮	配点基準				
			R1年	R1年	R2年	30年	R1年	R2年	⑤	④	③	②	①
流動比率	短期的な支払能力を測定する指標	流動資産／流動負債×100	301%	716%	701%	5	5	5	160以上	140～159.9	120～139.9	100～119.9	100未満
現預金比率	より厳密な支払能力をみることにより、正味の確実な支払能力をつかむ指標	現預金／流動負債×100	—	594%	579%	5	5	5	140以上	100～119.9	80～99.9	60～79.9	60未満
事業活動収入対借入金比率	事業活動収入に対する借入金の割合を示す指標	借入金／事業収入×100	49%	27%	24%	4	4	4	10未満	50～10	80～50.1	120～80.1	120.1以上
固定比率	有形固定資産の何%が純資産で賄われているか、有形固定資産の健全性を見る指標	固定資産／純資産×100	—	80%	77%	5	5	5	90未満	110～90.1	130～110.1	150～130.1	150.1以上
固定長期適合率	有形固定資産が長期安定資金である自己資本と長期借入金でどれだけ賄われているかを見る指標	固定資産／（純資産＋固定負債）×100	86%	71%	69%	5	5	5	90未満	100～90.1	110～100.1	120～110.1	120.1以上
自己資本比率	法人の純資本に占める、自己資本の割合をあらわす。財務安全性を見る上で重要な指標	純資産／総資本×100	72%	84%	84%	5	5	5	50以上	40～49.9	30～39.9	20～29.9	20未満

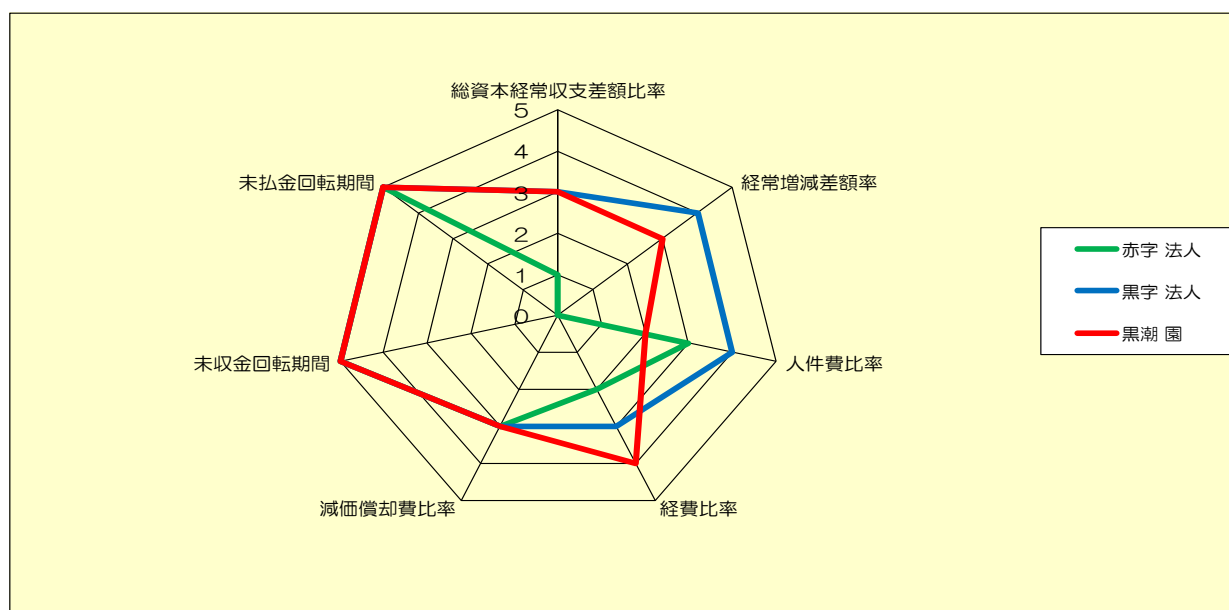


安全性の指標は全ての項目においてこれ以上ない水準に達しつつあります。特に財務の安全性もしくは健全性を評価する代表的な、短期的な支払い能力（安全性）を示す流動比率は701%と、全国平均301%と比較しても大変高い水準となっています。またデイサービス悠久開設時の借入金返済を終え、事業活動収入対借入金比率も更に減少しており、非常時における耐久力も十分備わっています。

### ◆収益性の分析

			赤字	黒字	黒潮	赤字	黒字	黒潮	配点基準				
			法人	法人	園	法人	法人	園	⑤	④	③	②	①
総資本経常収支差額比率	事業活動に投下された資本が、いかに効率的に運用されているかをみる指標	経常増減差額／総資本×100	-	1.3%	1.3%	1	3	3	3以上	2～2.9	1～1.9	0～0.9	0未満
経常増減差額率	経常増減差額は法人の経常的な活動により得られた利益を表す。経営安全度を見るために用いる。	経常増減差額／事業活動収入×100	-3.5%	4.5%	3.5%	0	4	3	6.0以上	4.0～5.9	2.0～3.9	0.0～1.9	0未満
人件費比率	事業活動収入に占める人件費の割合を示す指標	人件費／事業活動収入×100	69.2%	64.5%	70.5%	3	4	2	58～59.9 55未満	60～64.9	65～69.9	70～72.9	73以上
経費比率	事業活動収入に占める事務費・事業費支出の割合を示す指標	(事務費+事業費支出)／事業活動収入×100	27.7%	25.1%	20.5%	2	3	4	20未満	20～24未満	24～27未満	27～30未満	30以上
減価償却費比率	事業活動収入に対する減価償却費の割合を表す指標	(減価償却費-国庫補助金等特別積立金)／事業活動収入×100	6.1%	5.4%	5.0%	3	3	3	3未満	3.0～4.9	5～6.9	7～9.9	10以上
未収金回転期間	未収金の滞留状況を表す指標(単位:日)	未収金／事業活動収入×365	-	-	58.2	5	5	5	60未満	60～69	70～79	80～89	90以上
未払金回転期間	法人の支払状況に関する滞留状況を表す指標(単位:日)	未払金／事業活動収入×365	-	-	6.0	5	5	5	60未満	60～69	70～79	80～89	90以上

※図表1、図表2の配点基準については、「2019年度社会福祉法人の経営状況について（福祉医療機構）」と弊社データを元に(株)日本経営が独自に配点した



総資本（総資産）を投下してどれだけの経常利益を生み出しているか、その効率性を示し、法人の総合的な収益力を判断するための指標とされる「総資本経常増減差額比率」は1.3%となっています。また収益性を示す「経常増減差額率」は3.5%になっています。一方、全国の社会福祉法人のうち黒字法人に限ったデータは、総資本経常増減差額比率1.3%、経常増減差額率4.5%という数値になっていますので、黒字法人の平均水準並みの成績と評価することができます。

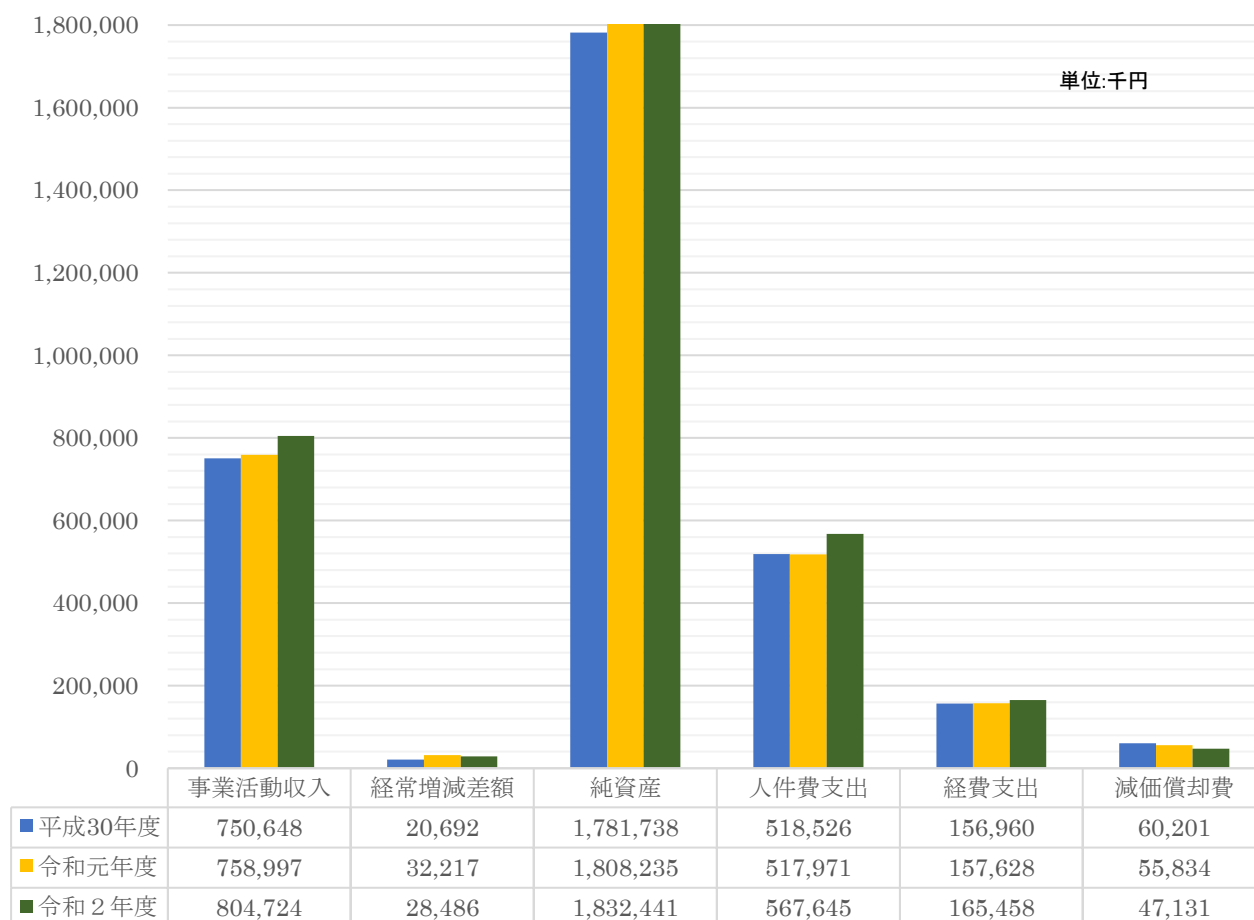
2019年度社会福祉法人の経営状況（福祉医療機構）において、社会福祉法人全体の平均利益率は3.0%でしたが、このデータはコロナ禍の影響を同年受けた2020年度のものではなく、直近のデータでは更に低下していることが予想されます。また赤字法人の割合は介護保険事業を中心に展開する法人で33%となっており、今後更に悪化するものと予想されます。このように社会福祉法人の経営事態として赤字法人と黒字法人との差が顕著になっており、その要因として明確な差があるのは人件費ではなく、従事者1人あたりのサービス活動収入であり、仮に適正な人件費率で運営していたとしても、十分な収益確保に至らず経営状況が厳しいものとなっている法人が少なくないと報告されています。このことから職員配置を充実しつつ適正な収益を確保できる経営には、稼働率管理による高い収益性が不可欠と言えます。

人件費比率と経費比率に目を向けると、人件費比率は黒字平均より5%程度高く、経費比率は5%程度低いという結果になっています。黒字法人の多くは、人件費のうち業者に委託できる部分は外部委託し、外部委託できない部分についても非常勤職員を活用する等により人件費を抑制し経営の効率化を図る一方で経費比率は高くなる傾向になります。当法人では、職員の正職員化を図り、職員一人当たりの処遇を手厚くしながら、専門的な教育を施すことで介護の質を高め、それによって利用者の満足が高まり、収入の源泉である稼働率も向上するという好循環のサイクルを回す一方で、経費率を抑制し高い利益率を確保することができています。

2021年4月に実施された介護報酬改定では0.70%のプラス改定となりましたが、自立支援介護を軸とし、科学的に裏付けられた効果のある介護の確立を進めており、介護職が専門職として成果を出すことを評価する新たな加算が多く設けられています。このように制度の動向は新たなステージに向かっており、介護経営では人材確保策だけでなく、専門性に特化した質の高い介護の実践体制を構築できるかが課題と言えます。これまで積み重ねてきた当法人の強みがさらに発揮されるものと言え、次年度も高稼働率に裏打ちされた高い収入と、職員への手厚い処遇を両立し、サービスの充実と適正な利益の確保に臨んで参りたい。

## 令和2年度社会福祉法人黒潮園事業報告

### ◆事業活動収支概要（法人合算）



法人合算過去3年間の事業活動収支の比較ですが、経常収支差額は、平成30年度は前年度比6,672千円減額の20,692千円、令和元年度は前年度比11,525千円増額の32,217千円となりました。令和2年度は前年度比3,731千円減額の28,486千円となりました。

事業活動収入は、前年度比45,727千円増額、当初予算比35,900千円増額の804,724千円と過去最高額となりました。その要因の一つに類を見ない高稼働率があり、黒潮園「特養入所者」「短期入所者」合算稼働率100%、クレール高森は合算稼働率99.8%と5期連続99%以上の達成に加え最高実績となりました。デイサービスにおきましても85.5%と5期連続80%以上を達成しています。この稼働率の実績は全国水準と比較しても圧倒的に高いものと言えます。また口腔衛生管理加算・夜勤体制配置加算Ⅲ・看護体制加算など新たな加算取得に取り組んでいます。このようにコロナ禍により危惧された減収の影響はないと言え、短期入所と通所介護にコロナウイルス感染症対応における介護報酬の特例上乗せのほか、国や新宮市によるコロナ感染症緊急包括支援事業助成金など更なる収入があったことも収入増の要因となったと言えます。

人件費支出については、過去最高の収入実績により年度末業績一時金を法人負担分の増額にて支給を行い、冬季賞与も 0.3 ヶ月分増やし 2.0 ヶ月分年間 3.7 ヶ月分にて支給し、前年度比 49,674 千円増額の 567,645 千円となっております。人員は年度末比で介護正職員 3 名増、介護短時間パート職員 1 名増、歯科衛生士 1 名新規雇用、看護正職員 2 名増、ケアマネージャー正職員 1 名は短時間パートに変更、家事パート職員 1 名増により、法人全体の常勤換算で 7 名増員となっております。年間昇給額については、同じく実績に応じて昇給ピッチを 3 から 4 にした他、人事考課制度による昇級対象者は前年度 4 名でしたが今年度は 6 名となり、前年比 1,453 千円増額の 3,505 千円となっております。

経費支出では、新型コロナウイルス感染症による影響で保健衛生費などの増額、インカム、iPad の導入、バスリフトの設置など介護ロボット・ICT の導入による事務消耗品費の増額の一方で、多くの外部研修がコロナにより開催中止となった事により研修研究費や旅費交通費などは大幅な減額となり、前年比 7,830 千円増額にとどまり 165,458 千円となっております。

<令和 2 年度主な修繕及び購入物品等>

・インカム	2,127 千円	・バスリフト	1,144 千円
・iPad (ソフト込み)	920 千円	・介護ベッド購入	2,393 千円
・ノートパソコン	1,360 千円	・勤怠ソフトライセンス	1,855 千円
・アクセスポイント	1,207 千円	・カラー複合機	1,199 千円

<コロナウイルスに影響を受けた経費>

・保健衛生費	10,575 千円 (前年度 4,754 千円)
・旅費交通費	87 千円 (前年度 880 千円)
・研修研究費	0 千円 (前年度 7,977 千円)

<助成金・保険金収入>

・定着支援助成金	1,576 千円	・新宮市コロナ支援助成金	400 千円
・コロナ感染症包括支援事業	7,125 千円		

<人件費> (法定福利費含む) 職員数：前年度末 142 名、本年度末 151 名

・年間昇給額	3,505 千円 (前年度 2,052 千円)
・期末勤勉手当 3.7 ヶ月	74,396 千円 (前年度 3.4 ヶ月：64,838 千円)
・年度末一時金 (処遇金より)	26,656 千円 (前年度 20,708 千円)
・年度末一時金 (法人負担分)	12,550 千円 (前年度 7,676 千円)

<福利厚生費>

・職員互助会繰入金	400 千円	・ストレスチェック委託料	138 千円
・職員健康診断	1,904 千円	・介護職員腰痛検査	1,074 千円
・E S 向上組織分析委託料	308 千円	・インフルエンザ接種料金	467 千円

<減価償却費>

・本部 14 千円 ・黒潮園 17,807 千円 ・悠久 4,459 千円 ・クレール高森 24,851 千円

## 2、特別養護老人ホーム黒潮園 <入所> (定員 100 名)

### (1)入所状況

<年齢別入所者数>

年齢	～74歳まで	75歳～ 84歳まで	85歳～ 94歳まで	95歳以上	合計
( )は前年度	4人(4)	28人(27)	54人(48)	12人(18)	98人(97)

<平均年齢>

・87歳6ヶ月 (平均在園期間3年4ヶ月) ・最高年齢：100歳 ・最低年齢：69歳

<要介護度別人員>

平均介護度：4.1

介護度	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
( )は前年度	0人(0)	0人(0)	20人(21)	45人(41)	33人(35)	98人(97)

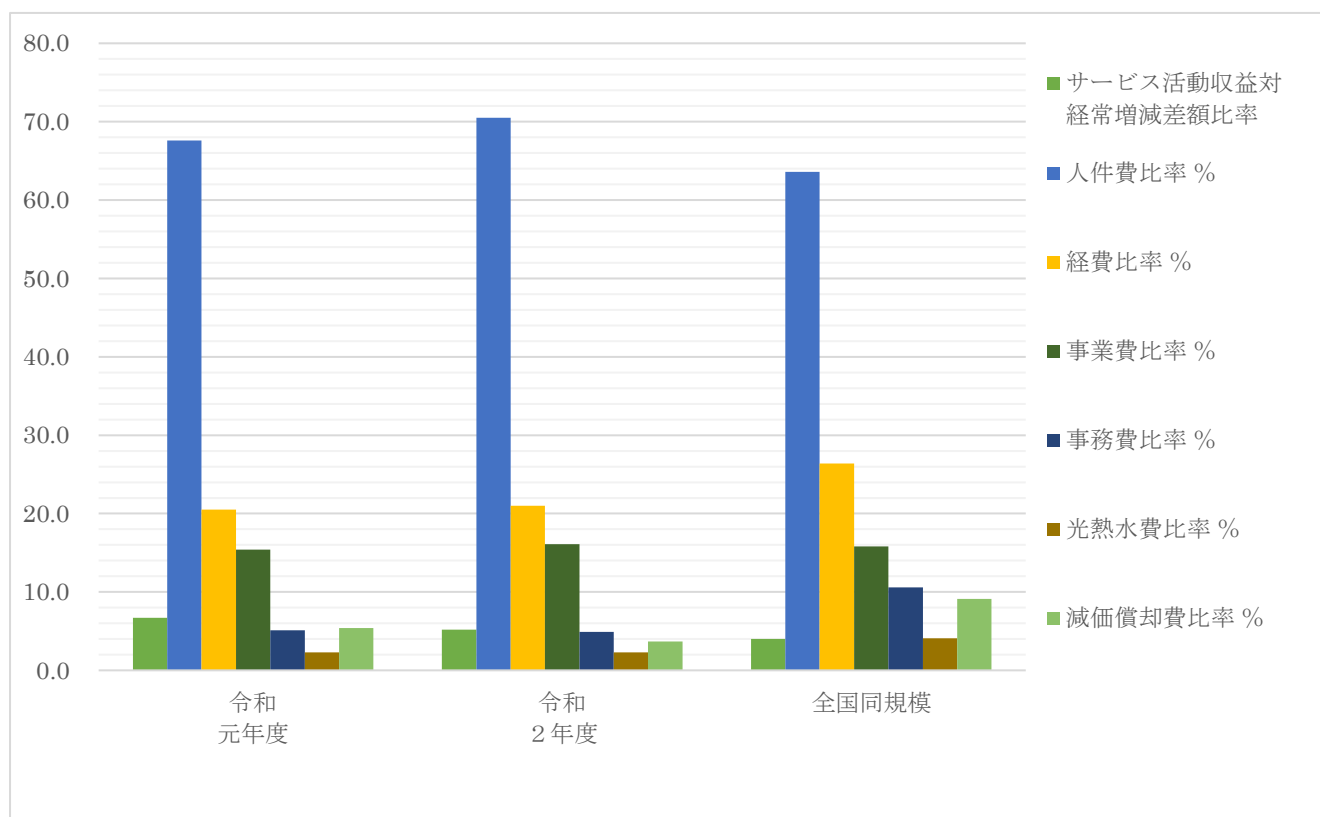
### (2)利用状況と実績

年度	利用者数	延べ利用者数	利用率	介護報酬収入	経常増減差額 (特養+短期)
令和元年度	1,156 人	33,886 人	92.6%	393,684 千円	30,900 千円
令和2年度	1,199 人	35,403 人	97.0%	417,634 千円	24,579 千円
増 減	43 人	1,517 人	4.4%	23,950 千円	△6,321 千円

令和2年度は入院者が少なく特養の稼働率は97.0%と目標と同率でした。短期入所は130.3%と目標を11.3%上回り、合算では目標の99.0%を1%上回り100.0%となりました。

(3)業績比較 (全国同規模は平成 30 年全国老人福祉施設協議会資料)

特養費用率等比較分析表



(4)指 標

項 目	令和元年度	令和2年度	全国平均 30 年度
利 用 率(特養)	92.6%	97.0%	93.9%
利 用 率(短期)	169.8%	130.3%	90.8%
利 用 率(特養+短期)	99.6%	100.0%	—
平 均 介 護 度(特養)	4.1	4.1	4.0
平 均 介 護 度(短期)	2.9	3.0	3.0
利用者1人1日当り介護報酬収入(特養)	11,618 円	11,797 円	9,646 円
サービス活動収益対経常増減差額比率(特養+短期)	6.7% (30,900 千円)	5.2% (24,579 千円)	4.0%
サービス活動収益に対する人件費率(特養+短期)	67.6% (311,377 千円)	70.5% (336,189 千円)	68.3%

項 目	令和元年度	令和2年度	全国平均30年度
サービス活動収益に対する 経費率(特養+短期)	20.5% (94,437千円)	21.0% (100,012千円)	26.4%
サービス活動収益に対する 事業費比率(特養+短期)	15.4% (70,958千円)	16.1% (76,635千円)	15.8%
サービス活動収益に対する 事務費比率(特養+短期)	5.1% (23,479千円)	4.9% (23,377千円)	10.6%
減価償却費比率 (特養+短期)	5.4%	3.7%	9.1%
利用者1人1日当り オムツ代(特養+短期)	194円 (7,790千円)	191円 (7,674千円)	138円
利用者1人1日当り給食 材料費(特養+短期)	880円	889円	807円
介護等職員1人当り利用者数 (特養+短期)	2.00人	1.96人	1.99人
介護等職員非常勤職員割合 (特養+短期)	7.5%	7.8%	18.4%
介護職員等職員数「常勤換算」 (特養+短期)	56.2人	58.2人	52.0人
全体職員数「常勤換算」 (特養+短期)	80.3人	82.0人	67.5人

## <短期入所生活介護>(定員10名)

### (1)利用状況と収入実績

年 度 別	利 用 者 数	延べ利用者数	利 用 率	介護報酬収入
平成元年度	578人	6,213人	169.8%	66,699千円
令和2年度	494人	4,756人	130.3%	52,091千円
増 減	△84人	△1,457人	△39.5%	△14,608千円

### (2)業績比較

項 目	平成元年度	令和2年度	全国平均30年度
短期入所利用率	169.8%	130.4%	90.8%
平均介護度	2.9	3.0	3.0
利用者1人1日当り 介護報酬収入	10,735円	10,953円	9,088円

## <決算概要>（入所・短期入所合算）

利用率は入所 97.0%、ショート 130.3%、合算 100.0%となり、昨年度の 99.6%を上回る実績となりました。また常勤歯科衛生士の雇用による口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算ほか、喀痰吸引等ができる職員の配置による夜勤職員配置加算Ⅲなど新たな加算取得に取り組みました。加えて新型コロナウイルス感染症対応の短期入所における介護報酬の特例上乘せのほか、コロナ感染症緊急包括支援事業補助金の収入があり介護保険収入は前年度比 9,364 千円増額、当初予算比 5,378 千円増額の 469,726 千円となりました。

特養入所対象者では重度な高齢者の受け入れが優先されており、入所後に体調不良等にて入院する方が多くなる傾向にあります。黒潮園ではケアの質向上により入院者数が少なく、入院者が出た場合は短期入所の空床利用に積極的に活用していることが高い利用率に繋がっていると言えます。

人件費支出に関しては、冬季賞与を 0.3 ヶ月上乗せし 2.0 ヶ月とし年間 3.7 ヶ月としたほか、今年度も年度末に実績による一時金支給を行いました。職員数は前年度比、歯科衛生士・介護職員各 1 名増となり、前年度比 24,813 千円増額となりました。サービス活動収益に対する人件費比率 70.5%となっており、全国平均よりやや高いものの、経費比率が低く抑えられている事が支出の特徴です。

経費支出ではマスクや消毒液の購入に伴う保健衛生費の増額、施設外研修出張なしによる研修研究費や旅費交通費の減額といった、新型コロナウイルス感染症の影響による増減、又介護ロボット・ICTの導入による増額等の結果、前年比 5,575 千円増額も経費率は前年度比 0.5%増にとどまっています。経費率は全国平均 26.4%に対して 21.0%と依然全国平均より低く抑えられています。

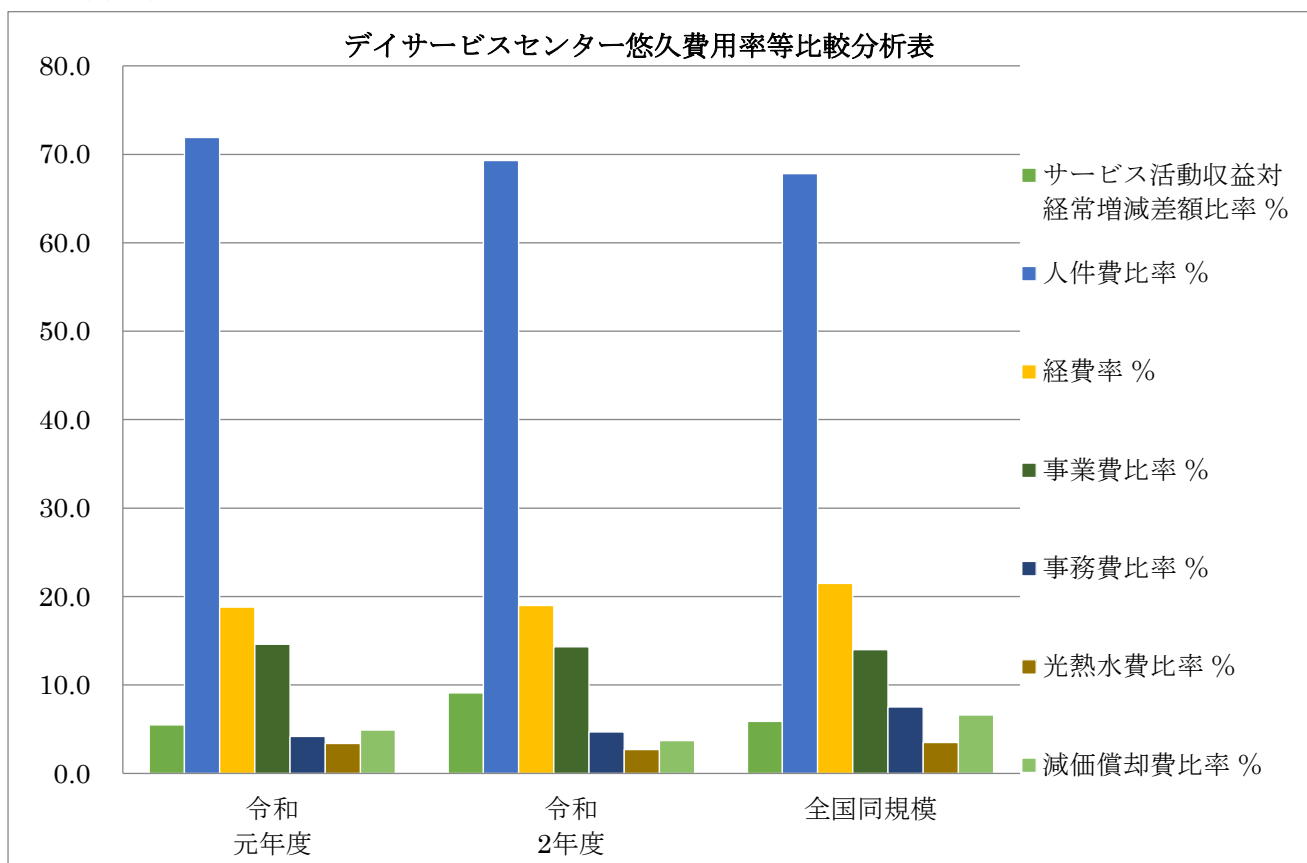
結果、経常増減差額は 24,579 千円、本部への拠点区分繰入金 30,000 千円を行ったことにより、当期活動増減差額は△5,421 千円となっております。サービス活動収益に対する経常増減差額比率 5.2%と、全国平均と比較しても高く、現状では適切な利益水準を確保することが出来ていると言えます。

### 3、通所介護事業 デイサービスセンター悠久（定員45名）

#### (1)利用状況と収入実績（営業日数 310日）

	利用者数	延べ利用者数	利用率	平均介護度	介護報酬収入	経常収支差額 (通所+居宅)
令和元年度	予防 292 一般 1,161	予防 1,626 一般 9,633	81.2%	2.0	101,326 千円	5,937 千円
令和2年度	予防 179 一般 1,288	予防 970 一般 10,956	85.5%	2.2	113,698 千円	11,038 千円
増 減	14 人	667 人	4.3%	0.2	12,372 千円	5,101 千円

#### (2)業績比較 「居宅介護支援含む」（全国同規模は平成30年度実績平均）



## (3)指 標

「居宅介護支援事業含む」(全国平均は 30 年度実績)

項 目	令和元年度	令和2年度	全国同規模平均
サービス活動収益に対する 経常増減差額比率	5.5% (5,843 千円)	9.1% (11,038 千円)	5.9%
サービス活動収益に対する 人件費比率	71.9% (76,448 千円)	69.3% (84,193 千円)	67.8%
サービス活動収益に対する 経費比率	18.8% (19,932 千円)	19.0% (23,117 千円)	21.5%
サービス活動収益に対する 水道光熱費比率	3.4%	2.7%	3.5%
減価償却費比率	4.9%	3.7%	6.6%
利用 1 回あたり介護報酬 (食費・居宅含まず)	8,390 円	9,534 円	7,982 円
介護職員等 1 人あたり利用者数 (介護等職員数 16.3 名)	2.24 人	2.36 人	2.91 人

## &lt;決算概要&gt; 「居宅介護支援事業含む」

目標稼働率 82.0%に対し実績 85.5%と 3.5%増となり、前年度比では 4.3%増となりました。加えて新型コロナウイルス感染症に対応の介護報酬の特例上乘せや、コロナ感染症緊急包括支援事業補助金などにより収入増につながっています。介護保険収入は前年度比 12,220 千円増額の 117,987 千円となりました。

人件費支出では、利用者増に伴う業務改善として正看護師・介護職員とも 1 名増、家事パート職員 2 名増とし、また冬季賞与を 0.3 ヶ月上乗せし 2.0 ヶ月とし年間 3.7 ヶ月に、今年度も年度末に実績による一時金支給を行った事により、前年度比 7,745 千円増額の 84,193 千円となりました。人件費比率は 69.3%と全国平均 67.8%を 1.5%上回っています。その他の経費については新型コロナウイルス感染症の影響による増減額、I C T 導入による増額があり、結果、前年比 3,185 千円増額となりましたが経費率 19.0%と全国平均 21.5%に比べ低く抑えられています。

サービス活動収益に対する経常増減差額比率は 9.1%と全国平均 5.9%に対し 3.2%上回っており、経常増減差額は前年度比 5,101 千円増額の 11,038 千円となりました。

今年度はコロナ禍により、実際にサービスを提供した時間の報酬より 2 区分上位の報酬を算定できる特例が設けられましたが、次年度では特例は廃止されるため、この事業規模に応じた実績の維持には高い稼働率の維持と未取得加算の算定に積極的に取り組みことが重要と言えます。新宮市圏域において定員 45 名規模のデイサービスは唯一であり、引き続き地域ニーズにお応えする事業所を目指し取り組んでいきたいと思ひます。

#### 4、居宅介護支援事業 在宅介護支援センター悠久

##### (1)利用状況と収入実績

	利用者数	居宅介護支援収入	受託事業収入	居宅介護支援 事業収入
令和元年度	511 人	4,441 千円	619 千円	5,060 千円
令和2年度	490 人	4,536 千円	524 千円	5,060 千円
増 減	△ 21 人	95 千円	95 千円	0 千円

居宅介護支援事業収入は前年度と同額の 5,060 千円となっております。今年度も職員配置 1 名での運営としています。人員配置を充実させた居宅支援事業所とは異なり、特養に併設する居宅介護支援事業の全国平均経営成績では、事業収入に占める人件費の割合が高く経費を負担しきれていない現状があります。このように一般的に特養との併設では経営効率が悪いと言われる事業ではありますが、地域支援の窓口として重要な事業でありその意義は大きいと考えます。

## 5、地域密着型特別養護老人ホームクレール高森 <入所> (定員 29 名)

### (1)入所状況

<年齢別入所者数>

年齢	～74歳まで	75歳～84歳まで	85歳～94歳まで	95歳以上	合計
( )は前年度	1人(1)	5人(3)	15人(14)	8人(9)	29人(27)

<平均年齢>

- ・ 90歳 0ヶ月 (平均在園期間 2年 7ヶ月) ・ 最高年齢：100歳 ・ 最低年齢：73歳

<要介護度別人員>

平均介護度：3.9

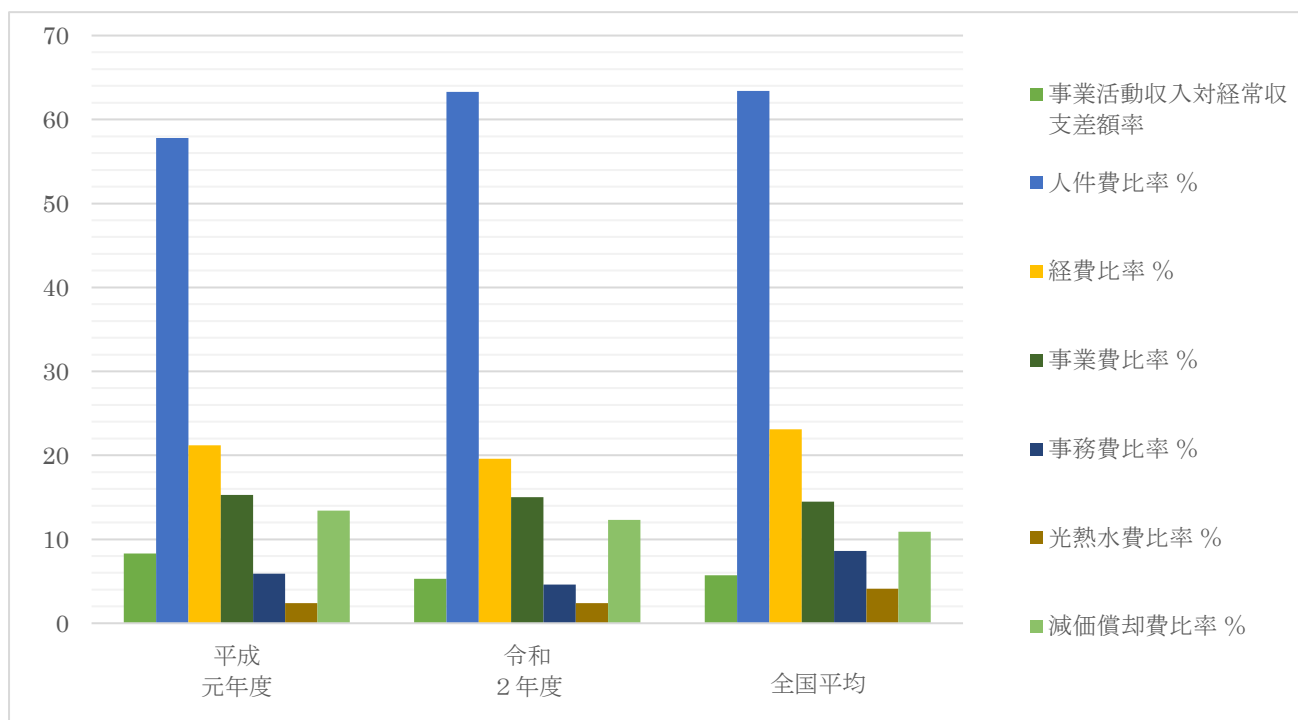
介護度	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
( )は前年度	0人(0)	0人(0)	12人(9)	8人(9)	9人(9)	29人(27)

### (2)利用状況と実績

年度	利用者数	延べ利用者数	利用率	介護報酬収入	経常収支差額 (特養+短期)
令和元年度	347人	10,296人	97.0%	141,391千円	15,920千円
令和2年度	347人	10,438人	98.6%	147,888千円	10,773千円
増減	0人	142人	1.6%	6,497千円	△5,147千円

### (3)業績比較 (全国平均データは平成30年度実績)

特養費用率等比較分析表



(4)指 標

項 目	令和元年度	令和2年度	全国平均30年度
利 用 率 (特養)	97.0%	98.6%	95.1%
利 用 率 (短期)	106.7%	103.3%	81.3%
利 用 率 (合算)	99.5%	99.8%	—
平均介護度 (特養)	4.0	3.9	4.0
平均介護度 (短期)	2.5	2.6	2.8
利用者1人1日当り介護報酬収入 (特養)	13,733 円	14,168 円	10,327 円
サービス活動収益対経常 増減差額比率(特養+短期)	8.3% (15,920 千円)	5.3% (10,773 千円)	5.7%
サービス活動収益に対する人件 費率(特養+短期)	57.8% (110,914 千円)	63.3% (127,774 千円)	63.4%
サービス活動収益に対する経費 比率(特養+短期)	21.2% (40,564 千円)	19.6% (39,442 千円)	23.1%
サービス活動収益に対する事業 費(特養+短期)	15.3% (29,251 千円)	15.0% (30,209 千円)	14.5%
サービス活動収益に対する事務 費(特養+短期)	5.9% (11,313 千円)	4.6% (9,233 千円)	8.6%
減価償却費比率 (特養+短期)	13.4%	12.3%	10.9%
利用者1人1日当りオムツ代 (特養+短期)	177 円 (2,518 千円)	168 円 (2,388 千円)	—
利用者1人1日当り給食費 (特養+短期)	1,074 円	1,006 円	824 円
介護等職員1人当り 利用者数(特養+短期)	1.50 人	1.47 人	1.79 人
介護等職員非常勤職員割合 (特養+短期)	19.2%	17.0%	18.8%

<短期入所生活介護> (定員 10 名)

(1)利用状況と収入実績

年 度 別	利 用 者 数	延べ利用者数	利 用 率	介護報酬収入
令和元年度	418 人	3,905 人	106.7%	50,414 千円
令和2年度	463 人	3,771 人	103.3%	50,559 千円
増 減	45 人	△ 134 人	△ 3.4%	145 千円

## (2)業績比較

項 目	令和元年度	令和2年度	全国平均30度
平均介護度	2.5	2.6	2.8
利用者1人1日当り 介護報酬収入	12,910円	13,408円	9,372円

### 決算概要（入所・短期入所合算）

利用率は入所 98.6%、ショート 103.3%、合算すると 99.8%となり、前年度 99.5%からさらに高い実績となりました。また常勤歯科衛生士の雇用による口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算、正看護師の配置による看護体制加算Ⅰ・Ⅱ、看取り介護加算など新たな加算取得に取り組みました。加えて新型コロナウイルス感染症対応の短期入所における介護報酬の特例上乗せのほか、コロナ感染症緊急包括支援事業補助金の収入があり過去最高の収入実績となりました。結果、介護保険収入は前年度比 6,643 千円増、当初予算比 1,237 千円増の 198,447 千円となりました。

人件費では冬季賞与を 0.3 ヶ月上乗せし 2.0 ヶ月とし年間 3.7 ヶ月に、今年度も年度末に実績による一時金支給を行いました。職員数は介護職員・介護短時間パート職員各 1 名増となっています。人件費支出は前年比 16,860 千円増となりましたが、サービス活動収益に対する人件費率は 63.3%であり、全国平均 63.4%と比較しても低く抑えられていると言えます。その他の経費は、新型コロナウイルス感染症の影響による増減額、又介護ロボット・ICT導入による増額がありましたが、結果前年度比 1,122 千円減額となっており、当期活動増減差額は前年度比 5,148 千円減額の 10,773 千円となっております。

質の高いケアの提供と健康管理により入所者の入院減により入所利用率は安定しており、高い利用率の実績においては短期入所の効率的な稼働がポイントと言えます。地域における高い信頼と地域事業所との連携により、入院時の空床利用他、キャンセルが出た際にもきめ細かに地域ニーズにお応えできた事が高実績の要因の一つと言えます。

小規模特養は定員が少なく規模による収益性が見込めないことから、大きな利益の確保が難しい事業とされています。独立行政法人医療福祉機構の経営実態調査（2019 年度）では、定員数が 29 人以下のユニット型施設の赤字の割合は 37.5%と高く、依然、経営は厳しい状況にありますが、このように短期入所を併設した効率的な運営が事業安定に大きく関係する事が示されます。引き続き高い稼働率に対して低い経費、そして必要な人件費を確保したより高い収支バランスを保った運営に取り組んで参ります。